

令和3年度「地域発！いいもの」として選定された取り組み(詳細)

(別紙1)

取り組み名	実施団体	上段:団体名 下段:住所	取り組み内容		取り組みのアピールポイント・特徴・効果
			概要	詳細	
1 函館市電を維持・継続させるための、必要な熟練工の技を伝える取り組み	特定非営利活動法人 函館市電の熟練工の技を伝える会	〒040-0005 北海道函館市見町18番21号	100年以上にわたり市民や観光客の足として愛されている函館市電を維持・継続させるため、路面電車の整備点検に係わる熟練工の技能・技術を後世に伝える取り組み。	① 函館市がこれまで担ってきた路面電車の整備点検業務を、NPO法人が市からの委託を受けて路面電車の心臓部ともいえる台車の整備に係る修理点検作業を行い、熟練技能の継承を進めている。 ② 従前、経験知に基づく口伝による継承であった台車の整備に係る修理・加工技術の定型化に取り組み、総合的な整備マニュアルとして作成し、研修を実施して地元での後継者育成を図っている。 ③ 「路面電車の日」や「函館電車祭り」での支援活動として、路面電車の持つ特性を紹介し、地球環境問題や交通渋滞緩和への啓発とともに、電車の利用促進に取り組んでいる。	① 歴史的遺産として、街の観光資源として、今なお走り続ける函館市電の整備・点検業務を担い、路面電車の維持・継続に貢献している。 ② 路面電車の安全運行に欠かせない車輪、モーター、ブレーキ等の駆動部分である台車の整備点検を支える熟練工の技を後世に伝えるため、後継者の育成に取り組んでいる。育成した技能者が現場の責任者に成長するなど順調に成果を上げている。 ③ 「路面電車の日」や「路面電車祭り」での普及啓発活動などにも積極的に取り組み、交通渋滞の緩和や環境負荷の少ない交通機関としての路面電車のイメージアップに寄与している。
2 「高校生レストラン」の運営・調理・サービス業志望者の育成と地域交流・活性化	学校法人スコレ 盛岡スコレ高等学校	〒020-0851 岩手県盛岡市向中野5-5-1	調理師養成に取り組んできた特色を活かして、一般向けレストランを「高校生レストラン」として、生徒が中心になって運営する取り組み。	① 調理師免許取得を目指す生徒が中心となって、「高校生レストラン」を運営し、調理やサービスの技術・精神を身に付ける研鑽の場としている。 ② 「高校生レストラン」は、関係の保護者や地域住民が利用する場となっており、また、時宜や求めに応じて町内会が利用するなど、地域交流の拠点イベントとして交流のきっかけとなっている。 ③ 学校内で生産・収穫した野菜等の季節の食材や地元産の素材を活用し、農と食のつながりや地産地消の献立を紹介している。	① 運営に当たる生徒の技能・技術の向上に大いに役に立っており、経験した生徒の中から技能五輪全国大会の日本料理職種に岩手県代表として参加するなど、技能者育成の取り組みとして成果をあげている。 ② 地域交流の拠点イベントとして、多くの利用者がおり、地域のコミュニティ創生に貢献している。 ③ 農と食をつなげる活動になっているほか、地域の食材に興味を広げる場になっている。
3 「鹿沼組子耐力壁」への挑戦～宇工高生による伝統技能の継承～	栃木県立宇都宮工業高等学校 建築デザイン科 建築研究部	〒321-0198 栃木県宇都宮市雀宮町52番地	江戸時代から400年続く鹿沼組子の伝統工芸技術を後世に引き継ぐため、新しい着眼点で研究し、住宅の耐力壁としての価値を検証する取り組み。	① 鹿沼組子の工法を忠実に受け継いだ耐力壁とするため、技能者から組み方・工法の指導を受け、また、耐力壁の開発に向けては、企業や研究機関からのアドバイスを受けて実験を繰り返し、耐力壁としての強度を向上させている。 ② 鹿沼組子耐力壁を一般住宅(2軒)、県立高校外塙(1校)に取り付け、依頼者から好評を得ている。 ③ 県等のイベントにおいて子供たちに体験してもらうため組子パズルを製作し、鹿沼組子について理解を深めた。また、各イベントで耐力壁の取り組みを発表し、強度的にも十分担保されている鹿沼組子の理解を一般に広めた。	① 江戸時代から400年続く鹿沼の誇る伝統工芸技術を、美術的価値を残しながら、耐力壁としての価値を検証することができた。 ② 採光や通風さらには軸組自体を見せ意匠的に使用できる耐力壁として、他に例を見ないものを製作できた。 ③ 企業や研究員と接することで学校では学べないより専門的な知識と技術・技能の習得、イベントや展示会を通してものづくりへの意欲が高められるなど、人材育成につながった。
4 荒川区伝統工芸技術継承支援事業(荒川の匠育成事業)	荒川区	〒116-8506 東京都荒川区荒川2-2-3荒川区役所	伝統工芸技術を有し弟子をとることを希望する職人と弟子入りを希望する若者をつなぎ、修業にかかる費用の一部について支援を行い、伝統工芸技術の保存・継承する取り組み。	① 伝統工芸技術短期現場実習支援事業として、職人が伝統工芸の修得を希望する者を受け入れ、職人となることの意味確認、素質の検証のため3カ月間の現場実習を行う。職人の指導料、実習者の研修補助を支給し、後継者の育成を支援している。 ② 伝統工芸技術継承者育成支援事業として、伝統工芸技術短期現場実習支援事業修了者のうち、技術継承の修業を希望し将来性がある者を対象に、職人への材料費補助、継承者への研修補助・区内移住者への家賃補助を支給するなど、後継者の育成を支援している。 ③ 独立支援として、「はばたけ!若手職人展」などの展示会の開催や、ワークショップ等への講師依頼、区の広報媒体によるPRのほか、修了後2年間の家賃補助の継続など、②の修了者に対して、独立に向けた支援をしている。	① 事業開始からほぼ毎年新しい研修生が修業を開始しており、14名の職人が16名の弟子を育成するなど、伝統工芸技術の継承・振興に大きく寄与している。 ② 展示会の開催や支援の継続によって、若手同士のつながりや、区と職人との密接な関係が築かれ、区内で活躍する職人が増加している。 ③ 若手に特化した展示会の開催などを通じて、区内外に伝承されてきた伝統工芸技術のPRを行うことができた。
5 すみだ3M運動	墨田区	〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号	産業の歴史等を伝える「小さな博物館」、製造の場と店舗が一体となった「工房ショップ」、優れた技術者である「すみだマイスター」を認定し、区内の歴史・文化・技術を伝えていくための支援を行い、地域や次世代へ墨田区の歴史・文化・技術の継承を図っていく取り組み。	① 区内産業の歴史を伝える「小さな博物館」、製品を作る工房を見学できる店「工房ショップ」、優れた技術を公開する職人「すみだマイスター」に該当する施設、人物を認定している。 ② 専門家の派遣、講習会を実施し、認定事業者が自身の事業価値を見直し、後継者育成や技術継承を行えるように支援している。 ③ 小さな博物館、工房ショップを広く公開し、来訪者に認定事業者から扱う技術や資料について、随時、説明を行い、区内産業の魅力を伝えている。また、すみだマイスターは、実演イベントの参加等を通じて技術伝承を行っている。	① 認定事業者の取り組みが新聞等で紹介され、その技術の普及や区内産業のPRにつながった。また、3M運動によって認知度が向上し、認定事業者への雇用希望者の増加にもつながっている。 ② 消費者から直接フィードバックの機会が生まれ、認定事業者が自身の事業価値を再認識することができ、活動意欲の向上につながっている。また、すみだマイスターがいる事業所では、他の職人が認定に向けて技術向上に動かしむなど、事業所のモチベーションアップにつながっている。 ③ 親子2代ですみだマイスターに認定されたり、技術指導を行っている事業者の中には、新たに職人となったり、独立する者も出てきており、技術が着実に継承されている。



6	<p>地場材木を使用した社造りと佐渡内の社寺の修復工事を通して伝統建築、建築技術者の育成及び伝統技法の継承の取り組み</p>	<p>伝統文化と環境福祉の専門学校 〒952-1209 新潟県佐渡市千種丙202-1</p>	<p>佐渡産アテビを使用した「一間社流造本殿」制作や佐渡島内の社寺の修復工事の実習を通じて、若年者に宮大工の伝統技能を継承する取り組み。</p>	<p>① 佐渡市の木であるアテビ(アスナロ)を使って3年生の卒業制作として「一間社流造本殿」の制作に取り組むと同時に、毎年、業界紙に告知し、全国からこの本殿を奉納する神社を募り、落成式を行い奉納している。 ② 佐渡島内の社寺の氏子や檀家からの依頼を受けて、実習と応用をかねて修復に取り組んでいる。 ③ 島内外の小中学校生を対象に学校開放を行い、大工道具、製作物の展示、説明を通じて宮大工の周知を行うとともに、ヒノキを材料として、カンナを使い「箸」製作のものづくり体験の指導を行っている。</p>	<p>① 一間社流造本殿を制作し生徒の技術の向上を図り、また、制作した社殿を全国の神社に奉納し、若い世代が伝統建築に携わっていることをPRしている。 ② 島内の社寺の修復を通じて、地域住民との交流を図り、また、伝統建築と伝統技能の理解に役立っている。 ③ 小・中学校の生徒を対象とする職業教育として、「箸」製作の体験学習を行っている。</p> 
7	<p>備後イグサによる備後と継承</p>	<p>備後表継承会 〒729-0252 広島県福山市本郷町3020アトリエ本郷内「蘭庵」</p>	<p>会員企業や団体、地域住民、地元大学が協働し、イベントや講演活動を通じた備後表のPR活動、備後イグサの栽培農家の支援、備後地域特有の中継ぎ畳表伝承のための織機の再生等、備後イグサによる備後表の保全と継承を行う取り組み。</p>	<p>① 畳製作1級技能士を招いた手縫い実演会や円座作り体験会など小中学生及び一般向け各種イベントや講習会、農業系高校生を対象とする植え付け体験会の開催等、備後表の普及啓発活動を行っている。 ② 備後表の原料となる備後イグサの農家育成を目標として、会員企業や団体、地域住民、地元大学と協働で、稀少な備後イグサの栽培実践を行っている。 ③ 備後地域のゲストハウスなどの地域コミュニティや茶室、国宝寺院などの建築物において、備後表を活かした建築企画・計画・設計・施工を実践した。 ④ 備後地域で発祥し継承されてきた中継ぎ畳表の技術、畳表製作の技能を継承するため、「現代の名工」と協力し、稀少な動力織機の再生や手織織機の製作を支援している。また、文化財量保存会から職人を招聘し、若手技能者の技能・技術の向上を図っている。</p>	<p>① 講演会、イベント、メディア及び公式ホームページをとおして、備後地域内外に、備後イグサ及び備後表の重要性をアピールし、ブランドを再構築しつつある。イベント等を通じて参加者に関心を深め、特に、農業系高校生の参加は継続的な担い手の掘り起こしにつながり農繁期における人材確保が期待できるようになった。 ② 国宝をはじめ伝統建築物への畳施工は、備後表の価値と地域住民の誇りを高め、地域コミュニティへの施工は、地域の人々が親しむ機会を提供し、一般建築物への普及につながった。 ③ 動力織機の再生への支援によって、製織技術及び良質な備後イグサをむだなく使用することによる品質の向上、中継ぎ織機による備後表の効率的な生産の第一歩となり、より多くの建築物への施工を促進しつつある。</p> 
8	<p>「長崎刺繍」伝統技術の伝承と後継者育成</p>	<p>「長崎刺繍」再発見塾 〒852-8112 長崎県長崎市本尾町18-1</p>	<p>中国の流れをくむ長崎独自の刺繍であり地域文化の1つである「長崎刺繍」の現状把握、保存、継承、後継者育成を行う取り組み。長崎歴史文化博物館内における体験会の実施やオリジナルの製品を製作販売等の活動を通じて、知名度アップや理解促進に努めている。</p>	<p>① 刺繍を学ぶ基礎となる日本刺繍を体得することを目的に講習会を開催し、技能の普及に努めている。また、「長崎刺繍」の刺繍体験として、長崎市の重要文化財の桶屋町傘鉾垂れ「十二支」の複製を塾生で製作し、技能の伝承を行っている。 ② 古い「長崎刺繍」の見学や資料づくりなど歴史の理解を深め、貴重な文化遺産としての価値を再発見し、後世へ継承するため活動している。また、「長崎刺繍」のオリジナル製品を作り出し、長崎歴史文化博物館内にて限定販売を行い、県内外の観光客へも知名度アップにつなげている。 ③ 長崎歴史文化博物館内において、伝統工芸スタッフとして、年間約200名の小学生以上の者に対して、長崎刺繍の楽しさを広めるためのボランティア活動を行っている。</p>	<p>① 現在では唯一の長崎刺繍職人である嘉勢照太氏の指導のもと、現存する希少性の高い長崎刺繍の保存活動を行い、技能の伝承を進めている。 ② 古い長崎刺繍の見学や資料づくり等を行うなど、地域人材の育成を通して地域の活性化と発展に寄与している。 ③ 「長崎市伝統工芸人材育成事業」の活動として、県内外の小学生以上の参加者(年間約200名)に対し、伝統工芸体験を実施することで、長崎独自伝統文化に触れる機会を提供し、若年層の興味を引き出している。また、文化財保存活動、オリジナル長崎刺繍製品の開発販売などものづくり振興にも力を入れている。</p> 
9	<p>水俣高校機械科生徒による鳥獣被害対策プロジェクト「イノシカハンターズ」</p>	<p>熊本県立水俣高等学校 〒867-0063 熊本県水俣市洗切町11番1号</p>	<p>鳥獣被害に悩む地域のため、産官学連携システムを構築し機械科の高校生が中心となって、鳥獣被害対策プロジェクトを推進する取り組み。</p>	<p>① 少人数で運搬が可能となる軽くて丈夫で安価な箱罾を製作し、捕獲実績を上げやすとした。また、振動センサーを製作し、LINEが来るようにするなど、箱罾をIoT化し、見回り回数の削減と捕獲後の処理の迅速化を可能にした。 ② イノシカハンターズを中心として、地域の猟友会、企業、行政と協働体制のもと、イノシカハンターズと企業は、箱罾とセンサー製作を、猟友会は狩猟に関する知識や技術を、行政は狩猟免許取得助成を行う狩猟者育成システムが構築できた。 ③ 安心・安全に狩猟を行えるシステムがあることを地域の方に周知し、狩猟者を育成してパートナーを増やすことで、課題解決に取り組んでいる。また、近隣地域にある熊本県立高校とも連携し、箱罾を設置して使ってみた時の使い勝手など高校生のアイデアや技術を生かし、本校で箱罾を改良製作する取り組みを行っている。</p>	<p>① 高校3年生の生徒がこれまで習得した技術や知識を活用して、地域の方と触れ合い製作した製品で、喜んでもらえる達成感と充実感を覚え、新たな挑戦を始めるモチベーションとなっている。 ② 課題に取り組むことはSDGsの目標達成の1つである「17 協力者を増やす」につながり、2050年問題にある地球温暖化問題と少子高齢化問題の対策の一つとなる。地球温暖化により冬を過ぎても個体数が減少しない、田畑を荒らすなどの問題が増えて駆除する必要性が増した。狩猟者人口を増やすためには、軽量化した箱罾を製作することで容易に狩猟が出来る環境を提供する必要がある。そこで2030年までに以上の課題解決する道として、高校生が主体となって取り組んでいることを発信することで、パートナーも増えている。</p> 